1992年6月5日第3種郵便物承認　ＫＴＫ増刊通巻第5455号　　2024年1月26日発行（毎月1回25日発行）

KTK
NO.１１７

あらぐさ通信

後援会費郵便振替口座
０１０７０－７－３２１４５
あらぐさ後援会

編　　集　　あらぐさ後援会
編集協力　　社会福祉法人あらぐさ福祉会
〒617-0813　京都府長岡京市井ノ内広海道42－3
TEL 075-953-9212　FAX 075-953-9215

謹賀新年

本年もよろしくお願いいたします

社会福祉法人あらぐさ福祉会

２０２４．１．１

『おおきな作品に挑戦！！』

Ｂグループ

後援会行事「あらぐさひろば」での作品展に向けて、みんなで大きな作品に挑戦しようと、タペストリーの製作に取り組みました。

夏の間にたくさん咲いた朝顔の花からみんなで作った色水を、水風船に詰めて白い布めがけて投げたり、絵筆にとって思い思いに色付けしました。

当日はいつもとは違うダイナミックな活動に、みなさんワクワク、ドキドキ。とても素敵なタペストリーに仕上がりました。　　（浜野）

地域でくらす

大切にしたい　ぼくの余暇の過ごし方

大槻朋也

書・大槻朋也さん

大槻朋也さんは21歳。大好きなお姉さんとお母さんお父さんの４人家族です。
あらぐさでは、仲間と一緒に農園の作業やビーズの創作などの仕事を頑張っています。

おいたち

お父さんの仕事の都合で鹿児島に住んでいました。出水市にあった『白男川クリニック』で無事に誕生。０歳の頃からひきつけを起こすようになり、泣くと息が止まり、泣かさないように心配する日々でした。１歳児検診で、目が合わない言葉が出ないことから、障がいのあることがわかりました。保健センターの勧めで、就学前の療育教室『つるんこクラブ』に通いました。その後、向日市に転居しました。２歳でポニーの学校に通園し、３歳からは向日市立第６保育所に通いました。お母さんは、朋也さんを保育所に入れるために内職を始めました。

お家でのこと

朋也さんは小さい頃から水遊びが好きで、トイレやお風呂でいろいろなトラブルが起きました。そのためお風呂では１回分だけシャンプーを置いておくとか、トイレを利用する人がトイレットペーパーをその都度持ち込むとか、家族が生活する中で不自由なことがあります。外出時にはサポートが必要です。多目的トイレを確保することや着替えが必需品となっています。多動やパニックの症状が出ることがあるので、小学校の時から心療内科で治療を受けています。家の１階リビングには、トランポリン、ハンモック、ソファがあります。何度もジャンプをしてテンションが上がると、床が抜けそうになります。テレビでユーチューブを見たり、iPad で遊んだりすることが好きです。大音量にするので防音ガラスを入れて自由に遊べるようにしています。お父さんがサポート役です。お姉さんの佳奈子さんにとって弟の朋也さんは、宝です。高校生の頃から近くのレストランや京都の水族館などに連れて行ってくれました。休日はお父さんとドライブ、家族で１泊旅行にも出かけます。朋也さんは、季節のイベントをとても楽しみにしています。家ではクリスマスをします。万博会場などイベントがある所へは、ヘルパーさんと出かけています。

就学は、向日市立第５向陽小学校へ

障がい児学級に入級。その時、お世話になった葉狩先生と『20歳の成人のつどい』で会えてとても嬉しかったです。お母さんが働いていたので、放課後は第５向陽小の学童クラブに行きました。クラブには、図書室のような教室がありました。大勢の子どもたちの騒がしい声が苦手な朋也さんは、静かな図書室で加配の先生と過ごしました。そこにやって来てくれる友だちと遊びました。

学童クラブから帰宅するのは午後４時です。お母さんとコンビニや公園へと出かけていましたが、時々、どこかに行ってしまうことがありました。家が、外環の近くにあったのでいつも気配りをしていました。

府立向日が丘支援学校へ転校

４年生になって向日が丘に転校しました。放課後は、第５向陽小の学童クラブに通いました。スクールバス停は校門前にありましたが、学童クラブまで１人では行けなかったので、お母さんの友人の前田さんと垣内さんが学童まで付き添ってくれました。そして、少しずつ学童クラブから放課後のデイサービスへ通えるように準備をしていきました。

向日が丘の寄宿舎での体験

中学部３年生と高等部２年生の時に、１年間寄宿舎に入舎しました。放課後、寄宿舎の仲間と西山へ出かけたことでぐっすりと寝られるようになり、心身共に安定しました。

同世代の友だちとの共同生活を体験し、いろいろな力をつけることができました。

クリスマス会やお楽しみ会など大好きなイベントもありました。お薬が飲めるようになり、散髪にも出かけられるようになりました。朋也さんにとっての寄宿舎は、学校生活の中での「宝物」だったと、お母さんは感じています。本当に良かったです。学校卒業後『あらぐさ』の生活にすぐに慣れ、ショートステイも利用できるようになりました。

あらぐさでの活動と仲間

午前は、農園での作業や花づくりなど身体を使って働いています。職員と共に初めての仕事でも安心して鍬を使って畑を耕しています。午後は、染め物やビーズなど手芸品の創作活動をしています。細かいビーズで長いチェーンを作り、消毒用ボトルのストラップに仕上げて販売をしています。染めの仕事は10分交代での「鍋混ぜ」です。待つ時間には文字を書いて休憩タイムが取れ、好きな仕事となりリラックスしています。時々、金曜日には「おやつ作り」の活動が入ります。切ったり焼いたり・・・自分で作ったおやつは、美味しい！期待でいっぱい！の時間です。小グループで仲間と活動することが気に入っているようです。同じグループの今西さんは先輩です。いつも気にかけてくれて仲良しです。他の仲間の人たちと協力して仕事をしています。あらぐさの仕事で得意なジャンルは、ポスター看板係です。社交的ではないけれど「みんなが認めてくれている」「自分でもいける」という気持ちがあるのか、喜んで頑張っています。

ビク　　ムジナ

得意なことを活かして人とつながる

朋也さんは、2歳の頃から文字に興味を持ち、特に漢字に惹かれました。『犬養毅』『魚籠』など難しい漢字もよく知っています。

そして、少しずつ「文字で伝える力」が育ってきました。ヘルパーさんとのやりとりは、「今日、何する？」と会話の中で「文字で書く」という方法を取っています。職員は、わからない漢字があると朋也さんに文字で書いてもらっています。

休憩時間には「紙とペンをください」と伝え、「ありがとう」とお礼のあいさつを返します。また、おもしろい言葉かけをしたり、家で外食に出かけた時などの様子を話したりしています。職員たちとのやりとりが楽しそうです。

あらぐさでのくらし

好きな歌を歌っている時は、ゆったりとしたいい時間を過ごしていますが、時々周りの人が歌っていて嫌な時は「歌わないでください」と伝えています。イライラして興奮する時や疲れている時は、静かな部屋へ行って仮眠したり文字を書いたりして休憩をしています。朋也さんは水が好きなので、手洗いやうがい時に服が濡れてしまわないように職員が付き添っています。給食時は「おにぎりにしてください」と伝え、おかずを入れた大きなおにぎりを嬉しそうに頬張る姿が印象的です。

家庭での朋也さんの様子

ガイドヘルパーさんとのお出かけは、土曜日の午前10時から午後3時までの5時間です。ヘルパーは2人体制です。『乙訓ライフ（パグ）島本町のクローバー』など小学生の時からお世話になっています。障がいのある人にとって余暇の過ごし方がとても大事だと、お母さんは考えています。

母の願い

お母さんは、朋也さんのことを一番大切に考えて、家事や仕事をやりくりしています。

支援学校では2年間ＰＴＡの副会長をしました。大変な状況の中でしたが、いろいろと勉強をしました。

朋也さんが二十歳になった時、障害者年金申請のための書類を作成しました。とても難しかったです。将来的にはグループホームに入れるように支えていきたいと考えています。お祖母さんが在宅介護でヘルパーさんのお世話になった事をきっかけに、ヘルパーの資格を取り、今も現役で仕事を続けています。

お母さんの楽しみはよく働くこと、そして、旅に出かけることです。夢はいつかイギリスに行きたいと思っています。

（聞き取り：真殿・森垣）

各グループからの報告

『ハロウィンパーティー！』

（Aグループ）

Ａグループでは、利用者さんと一緒に企画した季節のイベントを行っています。秋はハロウィンの日に仮装＆お菓子パーティーをしました。

ハロウィングッズを身に着け、鏡を見ながら「どれが似合うかな？」とそれぞれ気に入ったものを選び、記念撮影をしています。仮装を見てもらい嬉しそうな方や、仮装よりも「早くお菓子が食べたい！」という方も。皆さん好きなお菓子を食べられて、笑顔いっぱいのハロウィンパーティーでした。（廣瀬）

『オレンジリング』

（Cグループ）

今春、あらぐさで向日市社協様から認知症サポーター養成講座を修了した方に配布される「オレンジリング」の製造注文を受けました。Ｃ グループでは、５人の方がその作業をされています。専用ゴムの編み込み工程は、根気のいる作業です。最初の頃は時間がかかりましたが、難しい作業をやり通し完成させた事が達成感や自信にもつながったのか、今では目を輝かせ、本当に楽しそうに作業されています。（佐名木）

『日帰り旅行』　（ワークセンターあらぐさ）

10月６日に日帰り旅行で『滋賀農業公園ブルーメの丘』に行ってきました。新型コロナウイルスの影響で、４年ぶりの旅行になります。

久々の旅行が決定した時は、皆さん大喜びでした。当日、貸し切りバスの車内ではカラオケ大会で大盛り上がり。バイキングで好きなものを食べ、それぞれが希望したバター作りやアイスクリーム作り、動物のふれあい等を楽しみました。「来年は一泊旅行で、朝風呂や宴会を楽しみたいね」と、早速来年の話をされていました。（三浦）

「コープ二条駅店販売のお知らせ」
11月16日からコープ二条駅店にあらぐさのクッキーとフィナンシェを置いていただくことになりました。
お近くに来られた際は是非、ご来店ください。

『デイ２の春』　（デイセンター２）

今年もとっておきの芸術祭に作品を出展しました。今回のコンセプトは、<みんなで作る一つの作品>です。デイ２の利用者さん全員がそれぞれ描いた小さな絵を、一つの大きな作品に組み合わせました。ステンドグラスをイメージしたこの作品は、光が当たるととても綺麗です。作品名を何にしようかと考えていると、ある利用者さんが、「春やな…デイ２の春！」と命名されました。12月にみやこめっせで行われた作品展では、デイ２みんなの春が素敵に輝いていました。（岡田）

『お月見』　（ケアホームいろどり）

９月、中秋の名月の日に月見をしました。

生活の場ならではの夜のイベントでありながら、めったにできない夜の散歩に、皆さんワクワクドキドキという様子です。天候にもめぐまれ、心地よい風の中、きれいなお月さまを眺めて、いつもとは一味ちがう雰囲気を楽しみました。

もちろん、月見の後は団子！とはいかないまでも、旬のイモや栗のスイーツをたっぷり味わいました。（粟野）

あらぐさ後援会主催

「みんなおいでよ～あらぐさひろば」、大盛況でした！

10月７日に開催された「あらぐさひろば」は、お天気に恵まれ、利用者、家族、近隣の方々や支援学校の卒業生、ご支援いただいている団体の方々など、たくさんの皆様にご来場いただきました。

ステージでは、今回初めて参加いただいた、琉球國祭り太鼓・バイオリン演奏・合唱団ひまわりっこ・フラダンス（フラ・マリエ）やあらぐさの利用者有志によるダンス「エビカニクス」など、とても盛り上がりました。

会場ではミニバザー（あらぐさ会）・なんでも市（京都イブニングロータリークラブ）・ジュース販売（ぱんだ企画）・遊びコーナー（あらぐさ職員）や、同時開催のあらぐさ作品展・もの作りワークショップ・ウクレレ体験（不登校を考える親の会大地）など、今年もとても多彩な「あらぐさひろば」になりました。

４年ぶりの開催でしたが、楽しい集いを実施することが出来ました。また、最後に京都イブニングロータリークラブ様から法人へ、なんでも市の売上げをご寄付いただきました。

ご参加、ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

法人報告

ご寄付をいただきました。ご支援ありがとうございました。

昨年、これまで乗っていたリフト車が１４年を越え、様々な不具合がでていたところ、多大なご寄付をいただき、寄付者様（匿名）のご意向により、送迎用車両を購入することができました。新しい車に、利用者の皆さんも職員も「きれいやな～」と喜んでいます。

昨年１１月、京都府遊技業協同組合様より、ケアホームいろどりで使用するスリングシート５枚分の費用をご寄付いただきました。

スリングシートとは、リフトを使いベットなどから車いすへ移乗する際に、体をすっぽり包む込みシートのことです。安全で気持ちのいい移乗ができます。

後援会費の入会・継続ありがとうございます

2023年８月１日～１１月１５日　敬称略順不同

T＆T美容室鳥居敏江　赤城博子　芦田昌夫　池島三千江　石井恵　石堂宏宜　石村和子　伊丹路恵　一箭浩志　伊藤和雄　射場隆　今井千代子　今西さよ子　大槻典子　大坪晴美　岡田多賀子　小川真寿美　荻野和雄　奥田保　乙訓教職員組合　小野田照代　甲斐幸子　垣内悦余　河合隆平　川辺孝子　木村まき子　金原道雄　黒木サキ子　小坂文夫　後藤邦子　坂下三良　坂下佳子　桜田吉昭　佐々木久子　澤月子　清水陽一　髙橋光子　武山彩子　田中栄治　田中正恭　田中洋子　田中礼子　谷早苗　谷川邦宏　千葉善清　時田麻里　冨永洋子　長岡天満宮社務所　中路克介　中嶋俊行　中村隆雄　中村文子　中村雄策　夏原典子　西村直　野々下靖子　ぱんだ企画　福井共子　藤松素子　藤本秀延　㈱ハウジングステーション代表取締役山下吉昭　ベーカリーセルフィーユ村上泰之　古川鐘二　前川明雄　前田仁　桝井良子　増田尚　松岡稔　岩倉美希　松家隆子　松村昭子　松山幸次　松山雅子　村井悦予　毛利靖子　森垣美知子　森下洋子　安井洌　安井裕之　山田陽子　山中啓三　山本眞弓　吉村龍二　米村久美　渡辺裕子　匿名１４名

作品展「創 19th」のお知らせ

今年度も下記の日程で作品展「創 19th」の開催を予定しております。沢山の方のご来場お待ちしております。

場所：長岡産業文化会館　１階大会議室

日時：2024年3月１６日（土）　正午オープン　～　午後5時まで

　　3月１７日（日）　午前９時　～　午後5時まで

後援会への入会・募金のお願い

あらぐさ後援会の活動やあらぐさ通信の発行・発送は、皆様からの会費や募金によって支えられています。継続の会費納入がまだの方がおられましたら、同封している振込用紙をお使いいただき、ご入金の程、よろしくお願いします。

あらぐさと私

ワークセンターあらぐさ　職員

赤井　みちこさん

（　あかい　みちこ　）

あらぐさのメンバーや作品と出会ったのは、私がさをり織りを始めたころ、さをり京都教室での作品展でした。

あらぐさメンバー初の作品展だったようで、今よりもとてもワイルドで粗削りな作品が並んでいました。メンバーの織っている姿がそこに見えるような作品たちに、「なんやろ、この個性を丸めてぶつけたような作品は！エネルギーが有り余ってあふれている！」と、当時施設でさをり織りの担当をしていた私は、いたく衝撃を受けたことを覚えています。

私は担当しているメンバーの力を引き出せているのかなど、自分自身の日々の向かい合い方を考えさせられました。あれから約２５年。ご縁がつながり、５年前からさをり織り縫製担当として関わらせていただいています。

ワークセンターのさをり織りメンバーとは織り仲間として長いお付き合いなので、作品を通して変化していく様子を楽しみに、そして表現者としていつも尊敬と憧れと羨みの気持ちで見ています。

一人ひとりの個性と特徴がはっきりでているのがあらぐさメンバーの織りの特出すべきところです。それは支援員さんが、メンバーの様子を丁寧に観察し、一人ひとりに合わせた環境の作り方を模索されてきた賜物だと思います。

そうして生まれた唯一無二の布を受けて形を考える作業は、メンバーと私の感性のガチンコのぶつかり合いです。それは楽しくもあり苦しくもあり、またうれしくもある時間です。縫製は料理で言えば最後の盛り付けのようなもの。盛り付けでおいしい料理の価値を下げてしまわぬよう全力で挑んでいます。

メンバーそのものであるこの素敵な作品たちが、もっと多くの方の目に触れ、手渡って、喜んでいただけるようになるということを切に願っています。そのためにこれからも私に何ができるのか。楽しみながら常に考え試していければと思っています。

1992年6月5日　第3種郵便物承認（毎月1回25日発行）2024年1月26日発行
ＫＴＫ増刊通巻第5455号　発行所　京都障害者団体定期刊行物協会
〒602-8144 京都市上京区丸太町通黒門東入藁屋町536-1 元待賢小学校1階
京都難病連内　発行人　髙谷修　頒価50円（購読料は会費に含まれています）

KTK
あらぐさ通信